



REHACARE 2022 国際リハビリテーション・福祉・介護機材展 ファイナルレポート

2022年9月14日～17日 / ドイツ・デュッセルドルフ

待ち望まれた3年ぶり開催の REHACARE : 生活のあらゆる分野に対応する イノベーションとハイテク・ソリューション

35,000名のビジターが**80**か国から**REHACARE**を訪問。**690**を超える出展者の製品に触れ、商談も熱を帯びる

イノベーティブ、エモーショナル、そして躍動的に：世界最大のリハビリテーションと介護の見本市である**REHACARE**（国際リハビリテーション・福祉・介護機材展）が3年ぶりにデュッセルドルフで開催された。実際に手に触れ、体験可能な多くの



イノベーティブな出展製品に加え、展示ホールでの多数のフォーラムやイベントで、介護とリハビリ市場で必要とされる自立生活や介護現場で必要となる製品、サービスが、幅広くまた印象的に展示発表された。

2022年9月14日から17日まで、35,000人のビジターが、障害者や要介護者が生活のあらゆる場面で必要とする、最新のサポートや介護、ソリューションに関する情報を収集した。今回の**REHACARE**でフォーカスされたのは、子供用の補助機器、車や車いすなどの移動補助機器や取り付け可能な周辺機器。また、初開催となったテーマパーク「**Menschen und Beruf**」（人と職業）では、専門的なリハビリテーション用の人体アシスト装置などが紹介された。その他、併催イベント・プログラムのハイライトとして、新型コロナウイルス感染症の後遺症や**Digitalisation / Participation 4.0**などの最新テーマがトピックとなった。

社会における機会の平等、垣根の無いネットワーキング、レジャーでのアシスト機器などの使い良さを感じる体験など - **REHACARE**に関わる全ての人が3年間これ

を待ち望んでいた。影響を受けてきた障害者や要介護者などの対象グループは多く、ドイツ連邦統計局の情報によると、2021 年末時点でドイツには約 780 万人の障害者があり、これはほぼドイツ国民 10 人に 1 人に相当。看護統計によると、2019 年後半には 410 万人以上が介護を必要とし、このうち、約 330 万人が在宅介護であった。REHACARE 2022 では、38 カ国から参加した 691 の出展企業が、ブースや会場内フォーラムで展示発表した数々の製品に大きな関心が寄せられ、使用ホール 4 から 7 のいたるところで「REHACARE がついに帰ってきた」という喜びの声が聞かれた。

「出展者による優れたイノベーション、充実した製品ラインアップ、業界からのエキサイティングなレクチャーにより、世界最大のリハビリテーションと介護の見本市は、魅力的なショーケースとして、その復活を成し遂げました。何よりも象徴的なのは、出展品の試用体験とスポーツセンターでのスポーツ経験などでの、有意義な会話や、障害のある人、ない人の中での活発な交流でした。REHACARE は人々の身近にあり、必要とされています。この見本市の核となるのは、実用的な体験と、開かれた機会の平等という原則です」と主催者メッセ・デュッセルドルフの取締役、E. ヴィーンカンプは同展をこのように総括した。

困難な経済環境にもかかわらず、Dietz, Kadomo, Meyra, Ottobock, Sunrise や thyssenkrupp など多数のトップブランドが、多くの中小企業とともに REHACARE 2022 に出展参加した。国際的な広がりに関しては、REHACARE の出展製品とサービスの充実度が功を奏し、海外からのビジター参加割合が増加し、80 カ国以上からの参加となった。

障害者とその家族向けのカウンセリングに対する高い需要

カウンセリングの必要性は、多くの障害者とその家族の間で高かった。会期中 4 日間、自助グループや福祉団体がアドバイスやサポートを提供、リハビリテーションにおける人体アシスト装置の利用に加え、Participation 4.0 に関するトピックと、バリアフリー社会でのデジタル化促進の具体的方法について、多くの議論が行われた。ドイツの全国的な身体障害者の団体である連邦自助協議会（BAG Selbsthilfe）の専務理事である Dr. M. ダンナーは、同団体のブースで行われた数多くの議論を歓迎し、次のように総括した。「特に自助グループの参加者は、REHACARE が情報と対話のプラットフォームとしてより良く機能していることに、非常に満足していました。オンライン方式は、コロナ禍でのカウンセリングの選択肢として、多くの人にとっ

て非常に限定的でした。同展で発表されたイノベーションに非常に感銘を受け、これらが多くの障害を克服できるようになったという事実は、再びアクセシビリティに関する議論を決定的に変えました」

展示ホールは素晴らしいムードで REHACARE 出展者は大きな満足

Ottobock HealthCare Deutschland GmbH のマネージング ディレクター、P. ヘーファーは、次のように述べています。「私たちはニューロ・モビリティのコンセプトを今回初めて発表しました。神経疾患患者の全体的なケアは、同業界での将来的なトピックであり、関連するアシスト製品への関心は非常に高く、新製品 **Exopulse Molli** スーツへの反応は特に高いものでした。ブース来場者との交流は、弊社チームにとって常に刺激的です。3年ぶりの REHACARE 開催で対面交流が再び可能になりました」

日本から今回、2社の出展参加があり、ヨーロッパを中心としたマーケティングや幅広く全世界のマーケット開拓を目指しての展示や商談を行い、継続出展者は3年ぶりに現地代理店と対面での商談を行った。

そのうち10年以上の継続出展で、高機能性クッションを出展した株式会社加地は次のようにコメント。

「予想以上に来場者が多く、COVID以前に戻った様な賑わいがあった。リアル展示会で実際に製品に触れて頂き、相手の反応を直に確認しながら商談を進められたため、価値のある展示会となった」



多様なプログラムがノウハウとアイデアの交換を促進

ホール6に設置された TREFFPUNKT REHACARE(Meeting Point REHACARE)は、情報、会議内容、体験などを交換するための有意義なプラットフォームとして、イベントの中心となった。トレンドのトピックには、長期にわたる新型コロナウイルス感染症の後遺症、デジタル化、社会生活への参加、テクニカル・サポートが含まれ、出展者らがイノベティブな製品を発表したステージ、**PRODUCTS & NEWS @ REHACARE** フォーラムも大成功であった。多くの来場者がこのプログラムを利用し、見本市参加を通じて得た知識や最新情報を深めることができた。

スポーツセンター（ホール 7a）はアクション充実

参加とトライ、これがホール 7a で毎回開催のスポーツセンターでの今回の合言葉だった。REHACARE の 4 日間、来場者は障害の有無にかかわらず、インクルーシブスポーツの多様な可能性を体験した。障害者、及びリハビリテーションスポーツの地元 NRW 州の協会である、Disability and Rehabilitation Sports Association North Rhine-Westphalia (BRSNW e.V.)のゼネラル・マネージャー、L. ヴィーゼル・パウアーは、「ほとんど家族の集まりのような楽しい雰囲気でした。障害があっても人気のあるスポーツをすることができると知った時の参加者の驚きと喜びには、本当に感銘を受けました」と語った。

次回 REHACARE は 2023 年 9 月 13 日～16 日にデュッセルドルフで開催される。

REHACARE に関する日本でのお問い合わせは：

（株）メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：服部

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959

mdj@messe-dus.co.jp <https://rehacare.messe-dus.co.jp/>